

製本のススメ

Vol. 145

毎日 暑い日が続きます。夏休みには海も山も賑わいますが、去年は海でサメ報道があり、今年は密入国の蟻だそうです。うっかりと芝生には寝ころべません、お気をつけください。

今回は**だから予備用紙がいるのです**の話し

加工の際に各工程で調整が必要なのは前回書きましたが、製本では工程数の多いものが数多くあります。単純に同じページ数でも加工内容が変われば、調整回数も増えて損紙も必要になります。下の例で見てみましょう

例えば 32 ページの中綴冊子 1000 冊で、予備用紙は 100 枚を例にしてみますと

16p×2台
各台に 50 枚ずつ付けられるので、綴じ工程まで問題はありません。

4p×1台 8p×2台 6p(三折)×2台
振り分けると20枚ずつになります。さすがに20枚では各加工に無理が出てきます。各台に50枚付けると、予備用紙枚数は250枚という計算です。

このように 加工内容によって予備用紙の枚数も変わってきます。どうしても予備用紙が不足気味の場合には、予め加工会社と打ち合わせの上、どの工程で加工不良が出やすいのかを確認し、その部分の用紙を増やし、その他は減らすなどの工夫をしていただくのが肝要です。またノート等のように**本文内容が共通(白紙や罫線など)**と言うような場合も注意が必要です。**各台に予備という感覚が薄れる**ため 総枚数に予備用紙の感覚になり、結果 実数に足りないという事態も起こります。

さて意外に**うっかりしやすいのがサンプル依頼**です。

そもそもサンプルは、様々な加工条件を想定して作られて行きますので、何冊も試作を繰り返しています。サンプルとして手元に届く1冊は、少なくとも10冊以上の試作を終えた最終品で、**決して初めから1冊だけ作ったものではありません**。其のため加工予備も20冊程度は作れるような枚数を支給していただく必要があります。



Tea break

夏の昆虫といえばゴキブリです。あの素早い動きと意表を衝いて羽ばたく作戦には、手強さを感じますね。昔からゴキブリは嫌われていたようですが 漢方では、乾燥して風邪や胃腸病の薬として、また体液をしもやけの薬として用いられていたようです。現代ではもっと即効力のある薬がありますから、使われはしないとと思いますが、、(未確認)

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本